



東洋大学

学生からみた東洋大学の教育

卒業時アンケート結果

3ヵ年比較（平成26年度～平成28年度）

東洋大学 IR室

はじめに

IR 室では、大学全体及び各学部・学科のさらなる教育改善を目的として、「新入生アンケート」・「在校生アンケート」・「卒業時アンケート」を実施しています。アンケート調査はそれぞれ、1年生、1年生から3年生、4年生を対象として、大学の学習環境、学習経験や大学生活に関する質問項目で構成されています。集約結果はIR 室が分析を行った後、IR 室運営委員会を通じて、教学執行部や学部長会議及び教職員・学生にフィードバックを行っています。

本報告書では、平成 29 年 3 月に実施した卒業時アンケート結果について、過去 2 年間のデータと経年比較をしながら、結果の特徴及び変化の傾向を検証しています。今後、より精緻な分析を継続していく予定ではありますが、まずは本報告書をお届けしますので、日ごろの教育活動にご活用いただけますと幸いです。

調査の実施に際し、多大なご協力をいただいた各教職員や学生の皆様に厚く御礼申し上げます。引き続き、IR 室の取組に対してご理解・ご協力くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2018 年 3 月

IR 室長・学長 竹村 牧男

● IR 室運営委員会委員

竹村 牧男 委員長 (IR 室長・学長)

高橋 豊美 (教務部長・副学長)

中原 美恵 (学生部長・副学長)

松原 聡 (副学長)

北脇 秀敏 (副学長)

劉 文君 (IR 室准教授)

林 邦男 (学長室長兼大学評価支援室長)

高橋 清隆 (国際部長)

● IR 室事務担当 (学長室学長事務課)

田中 明紀

新山 文洋

阿部 佑

佐藤 佳孝

平成 28 年度卒業時アンケート調査実施概要

○実施日 : 平成 29 年 3 月 23 日 (学位授与式)

○対象者数 : 6,351 名 (平成 29 年 3 月卒業生)

○回答者数 : 5,744 名

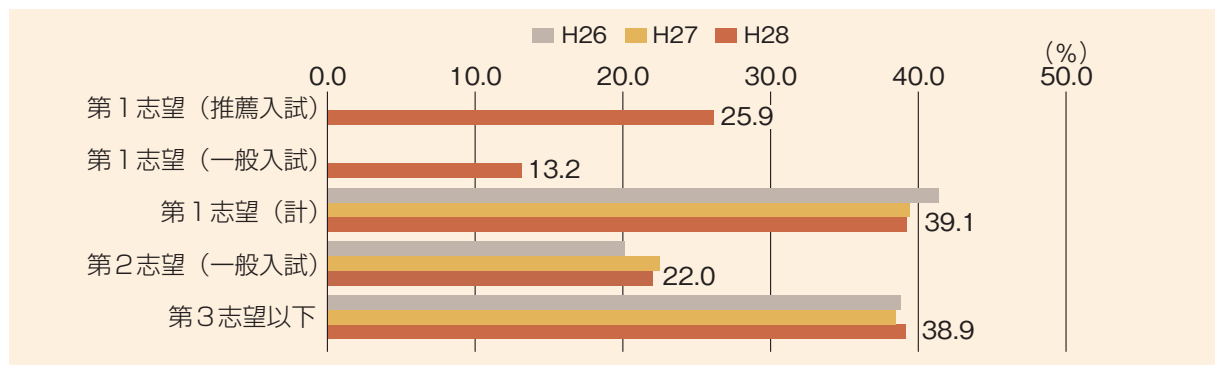
○回答率 : 90.4%

過年度実施卒業時アンケート回答率

○平成 27 年度卒業時アンケート回答率 : 91.2% (5,501 名 / 6,033 名)

○平成 26 年度卒業時アンケート回答率 : 89.5% (5,530 名 / 6,181 名)

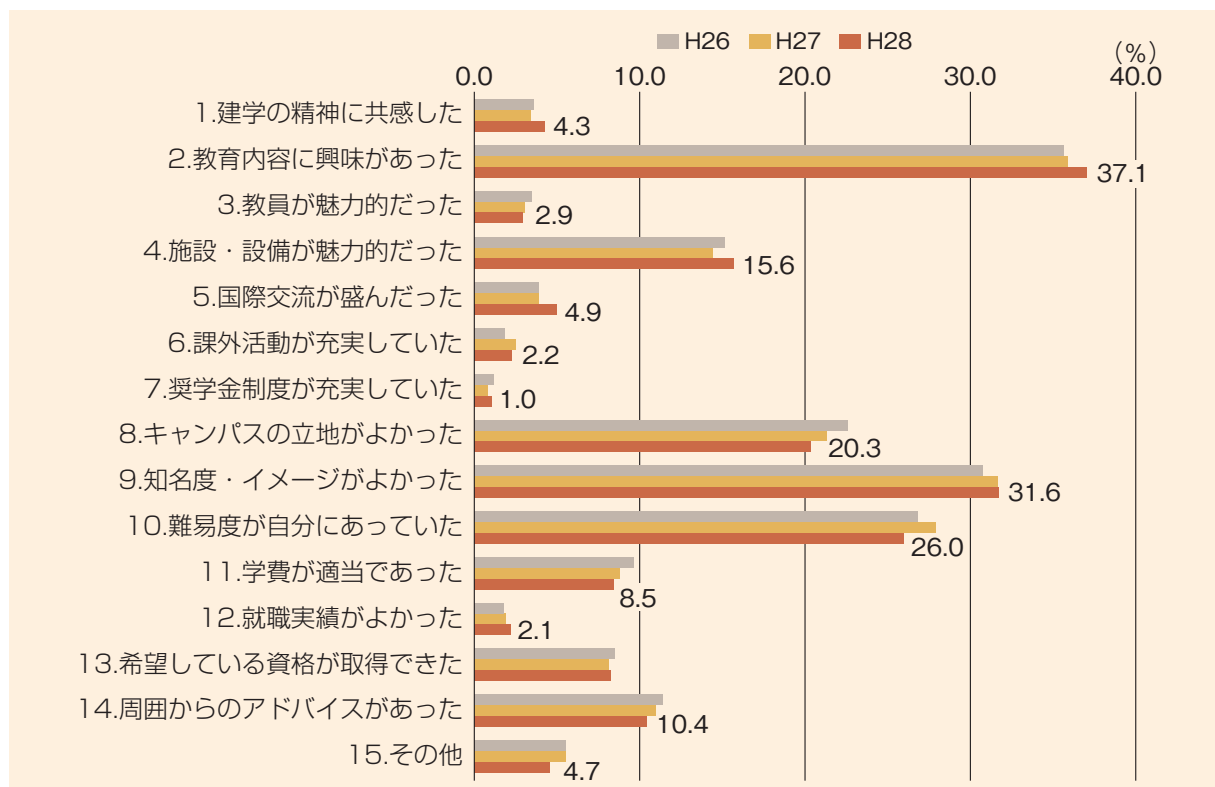
Q1 | 本学の志望順位は何位でしたか。



※第1志望はH28より、入試区分を追加

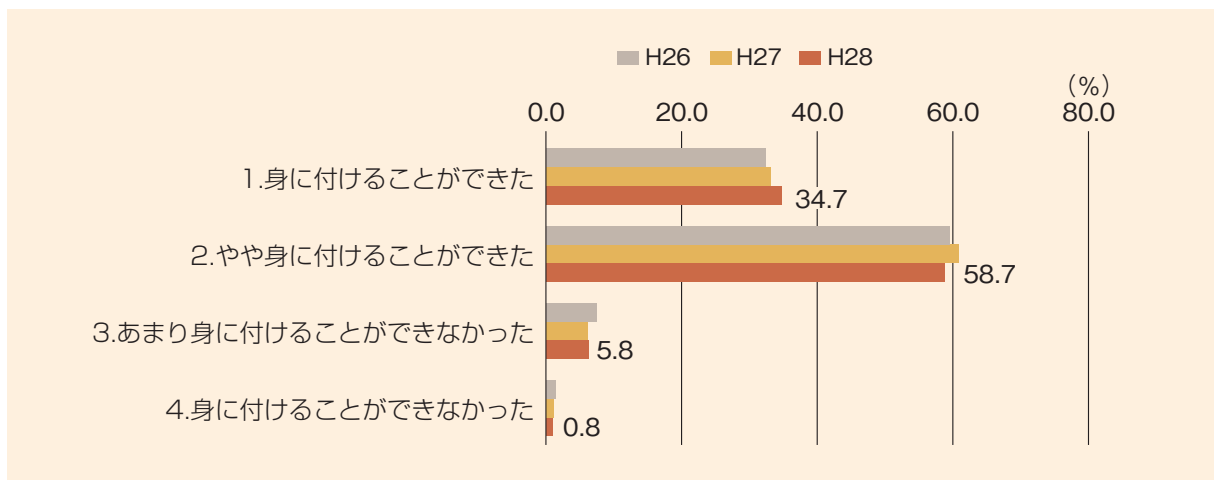
第1志望の合計39.1%のうち、一般入試は13.2%、推薦入試は25.9%である。また、第2志望は22.0%、第3志望は38.9%である。3年間で各分布の大きな変化は見られず、第1志望者の割合は若干減少傾向にある。

Q2 | なぜ、東洋大学および所属学部・学科を志望しましたか。 (複数回答可・3つまで)



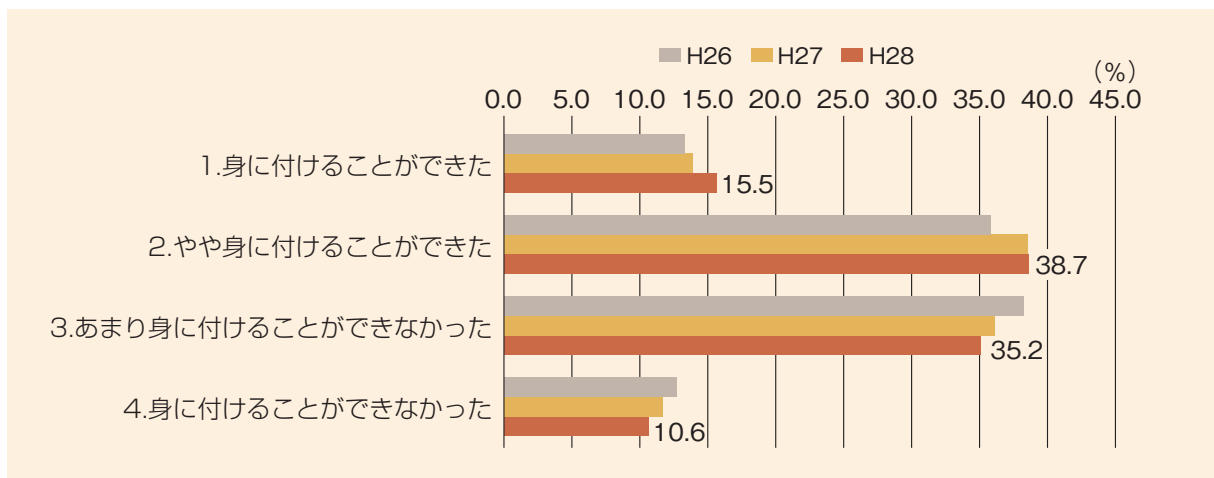
東洋大学および所属学部・学科を志望した理由として、「2. 教育内容に興味があった」(37.1%)が最も高く、そのほかに3割を超えているのは「9. 知名度・イメージがよかった」(31.6%)であり、これらの割合は経年で増加傾向にある。続いて、「10. 難易度が自分にあっていた」(26.0%)、「8. キャンパスの立地がよかった」(20.3%)が比較的高いものの、これらの割合は前年度より減少傾向にある。

Q3 教養教育において、幅広い教養を身に付けることができましたか。



幅広い教養について、「1. 身に付けることができた」(34.7%)は増加傾向にあり、「2. やや身に付けることができた」(58.7%)と合わせて、約93%に達している。

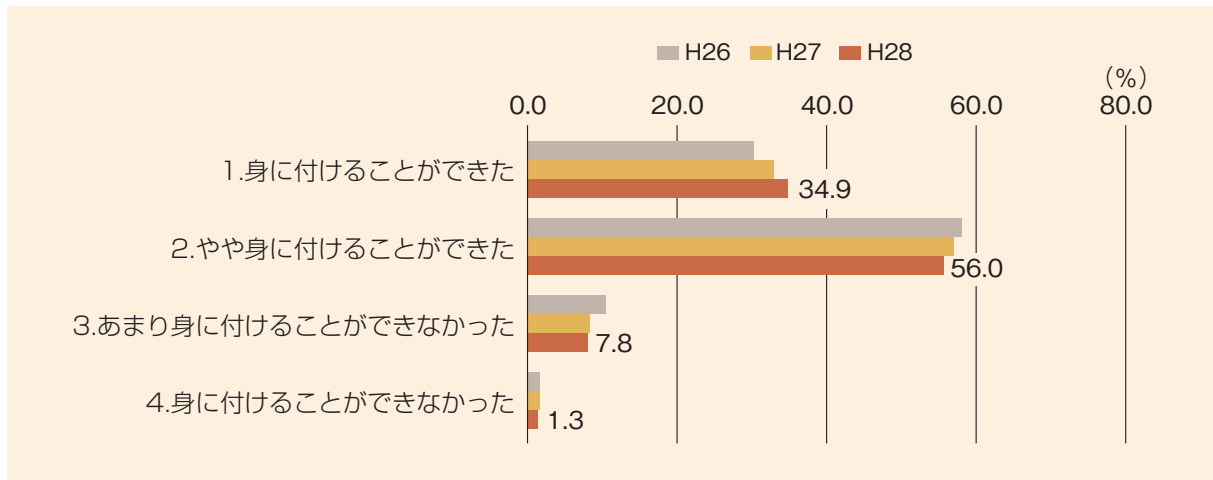
Q4 語学教育において、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができましたか。



外国語によるコミュニケーション能力について、「1. 身に付けることができた」(15.5%)は経年で増加傾向にあり、「2. やや身に付けることができた」(38.7%)と合わせて5割を超え、全体的に増加傾向にある。

Q5

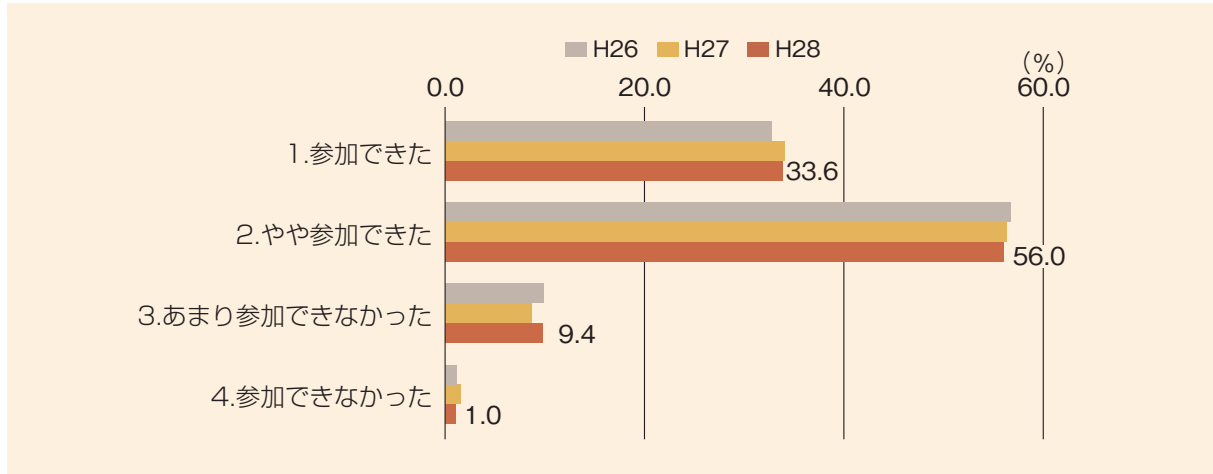
専門教育において、専門的な知識・技能・態度を身に付けることができましたか。



専門的な知識・技能・態度について、「1. 身に付けることができた」(34.9%)は経年で増加傾向にあり、「2. やや身に付けることができた」(56.0%)と合わせて9割を超えている。

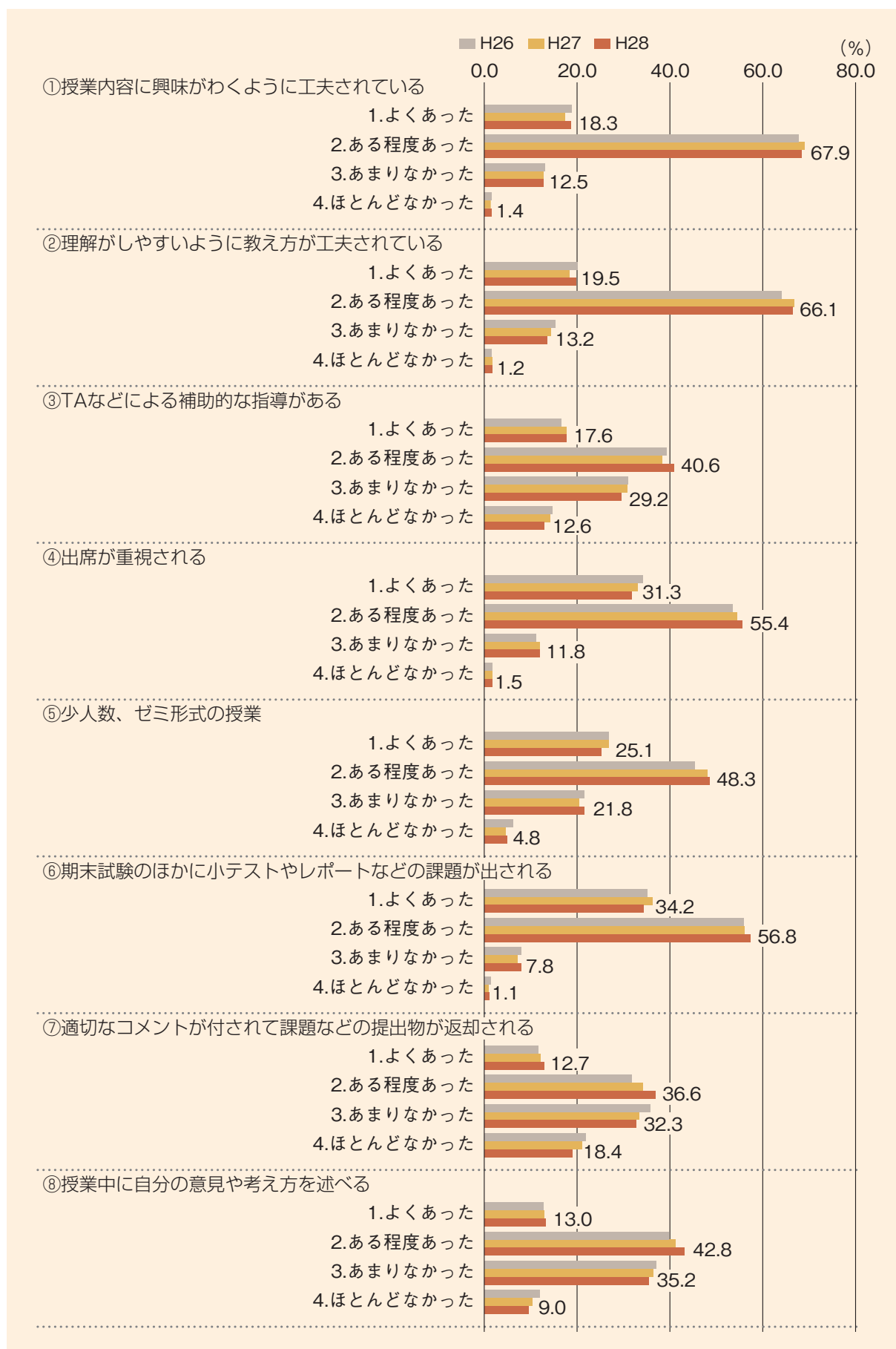
Q6

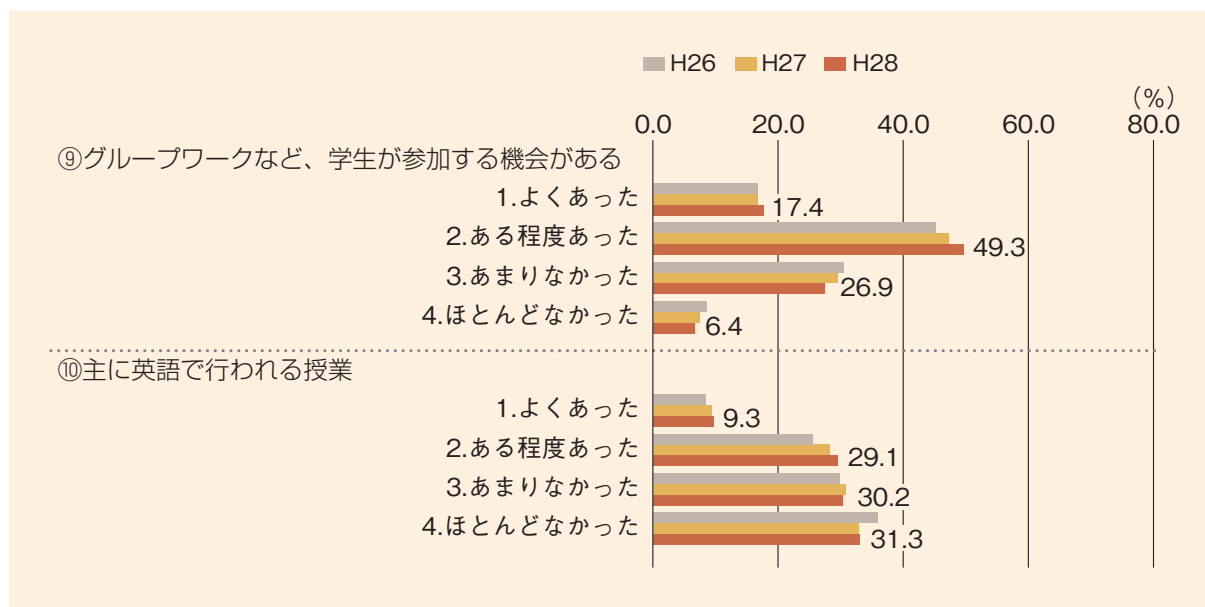
興味・関心を持って、主体的・自律的に授業に参加することができましたか。



主体的・自律的な授業への参加について、「1. 参加できた」(33.6%)と「2. やや参加できた」(56.0%)は合わせて約9割に達している。

Q7 | A. 下記のような授業についてどの程度経験しましたか。





「①授業内容に興味をわくように工夫されている」について、肯定的な回答である「よくあった」(18.3%)と「ある程度あった」(67.9%)は合わせて86.2%である。

「②理解がしやすいように教え方が工夫されている」について、肯定的な回答である「よくあった」(19.5%)、「ある程度あった」(66.1%)は合わせて85.6%である。

「③TAなどによる補助的な指導がある」について、肯定的な回答である「よくあった」(17.6%)と「ある程度あった」(40.6%)は合わせて58.2%である。

「④出席が重視される」について、肯定的な回答である「よくあった」(31.3%)と「ある程度あった」(55.4%)は合わせて86.7%である。

「⑤少人数、ゼミ形式の授業」について、肯定的な回答である「よくあった」(25.1%)と「ある程度あった」(48.3%)は合わせて73.4%である。

「⑥期末試験のほかに小テストやレポートなどの課題が出される」について、肯定的な回答である「よくあった」(34.2%)と「ある程度あった」(56.8%)は合わせて91.0%である。

「⑦適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」について、肯定的な回答である「よくあった」(12.7%)と「ある程度あった」(36.6%)は合わせて49.3%である。

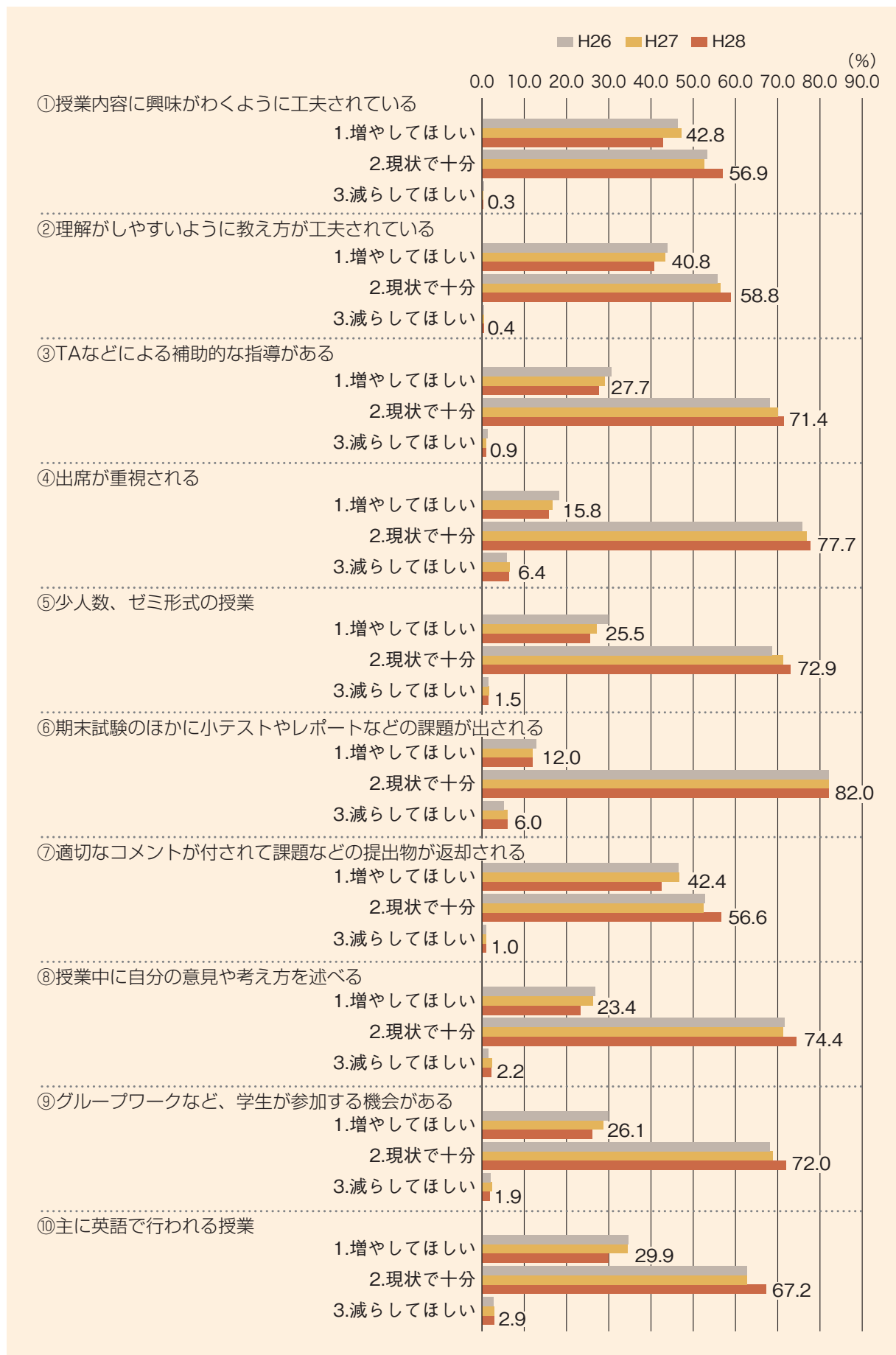
「⑧授業中に自分の意見や考え方を述べる」について、「よくあった」(13.0%)と「ある程度あった」(42.8%)は合わせて55.8%である。

「⑨グループワークなど、学生が参加する機会がある」について、肯定的な回答である「よくあった」(17.4%)と「ある程度あった」(49.3%)は合わせて66.7%である。

「⑩主に英語で行われる授業」について、肯定的な回答である「よくあった」(9.3%)と「ある程度あった」(29.1%)は合わせて38.4%である。

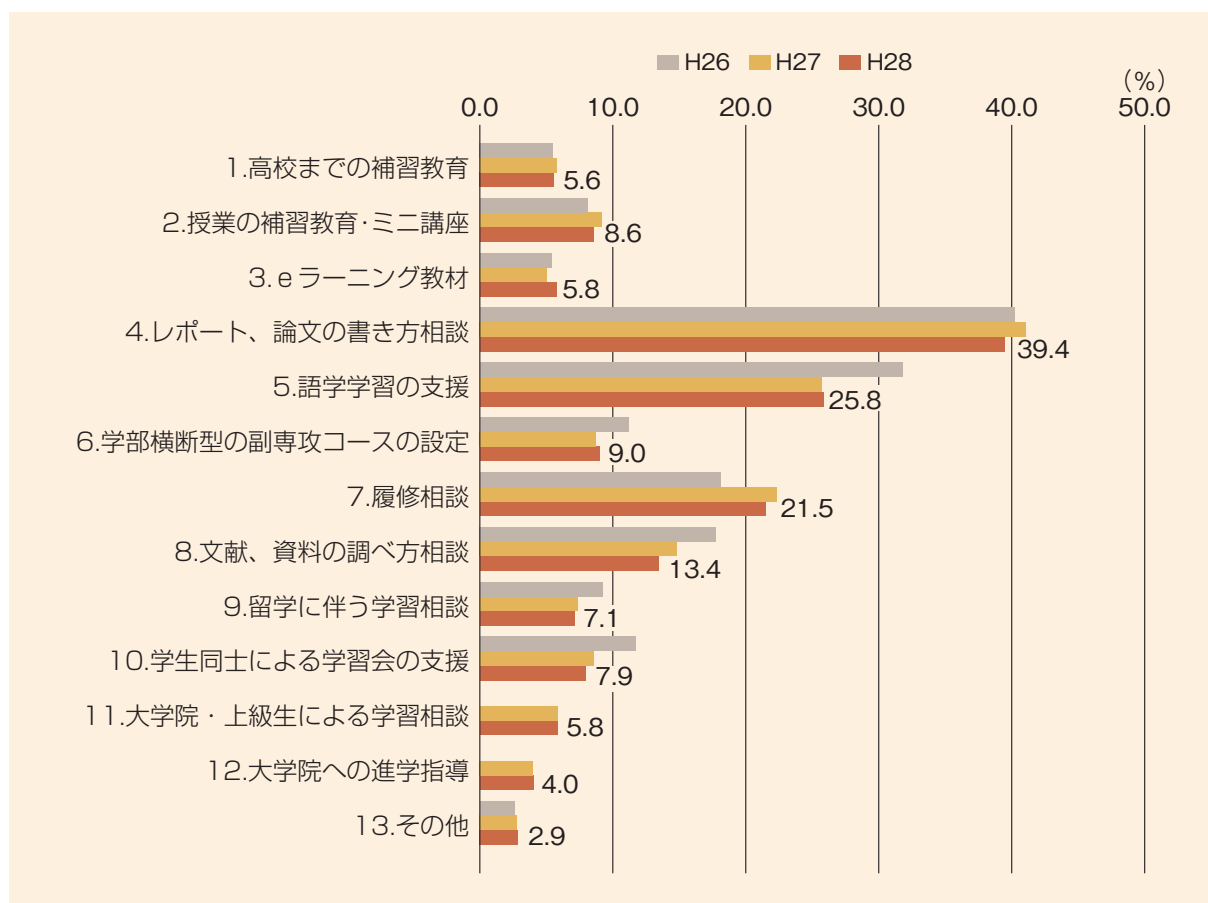
全体的な傾向としては、「⑦適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」、「⑧授業中に自分の意見や考え方を述べる」、「⑨グループワークなど、学生が参加する機会がある」、「⑩主に英語で行われる授業」といった授業の受講経験がある学生の割合が年々増加している傾向が見られる。

Q7 | B. 下記のような授業についてどの程度増やしてほしいですか。



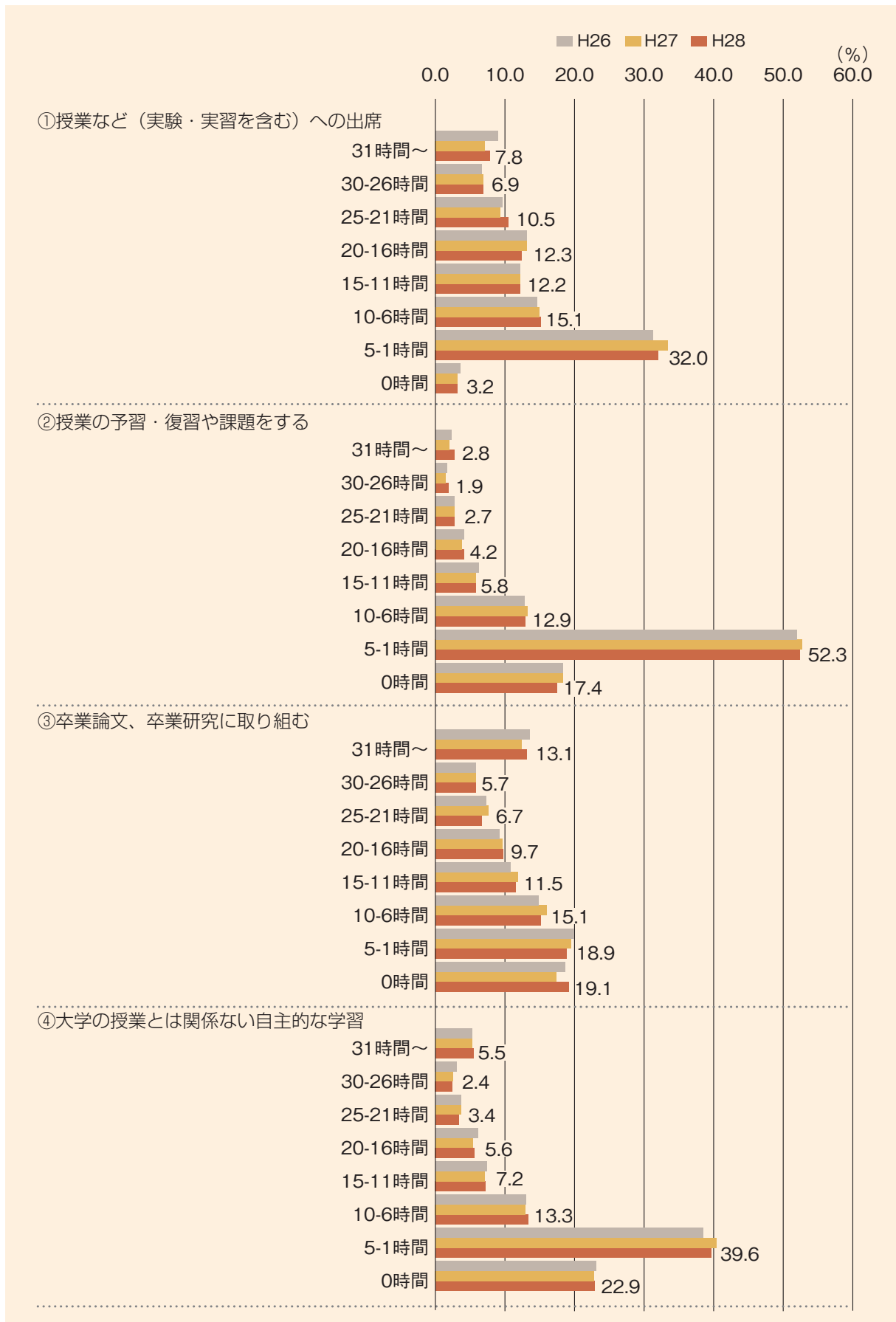
- 各授業形態について、「増やしてほしい」の割合が高い順に、
- 「①授業内容に興味がわくように工夫されている」(42.8%)
 - 「⑦適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」(42.4%)
 - 「②理解がしやすいように教え方が工夫されている」(40.8%)
 - 「⑩主に英語で行われる授業」(29.9%)
 - 「③TAなどによる補助的な指導がある」(27.7%)
 - 「⑨グループワークなど、学生が参加する機会がある」(26.1%)
 - 「⑤少人数、ゼミ形式の授業」(25.5%)
 - 「⑧授業中に自分の意見や考え方を述べる」(23.4%)
 - 「④出席が重視される」(15.8%)
 - 「⑥期末試験のほかに小テストやレポートなどの課題が出される」(12.0%)
- となっている。

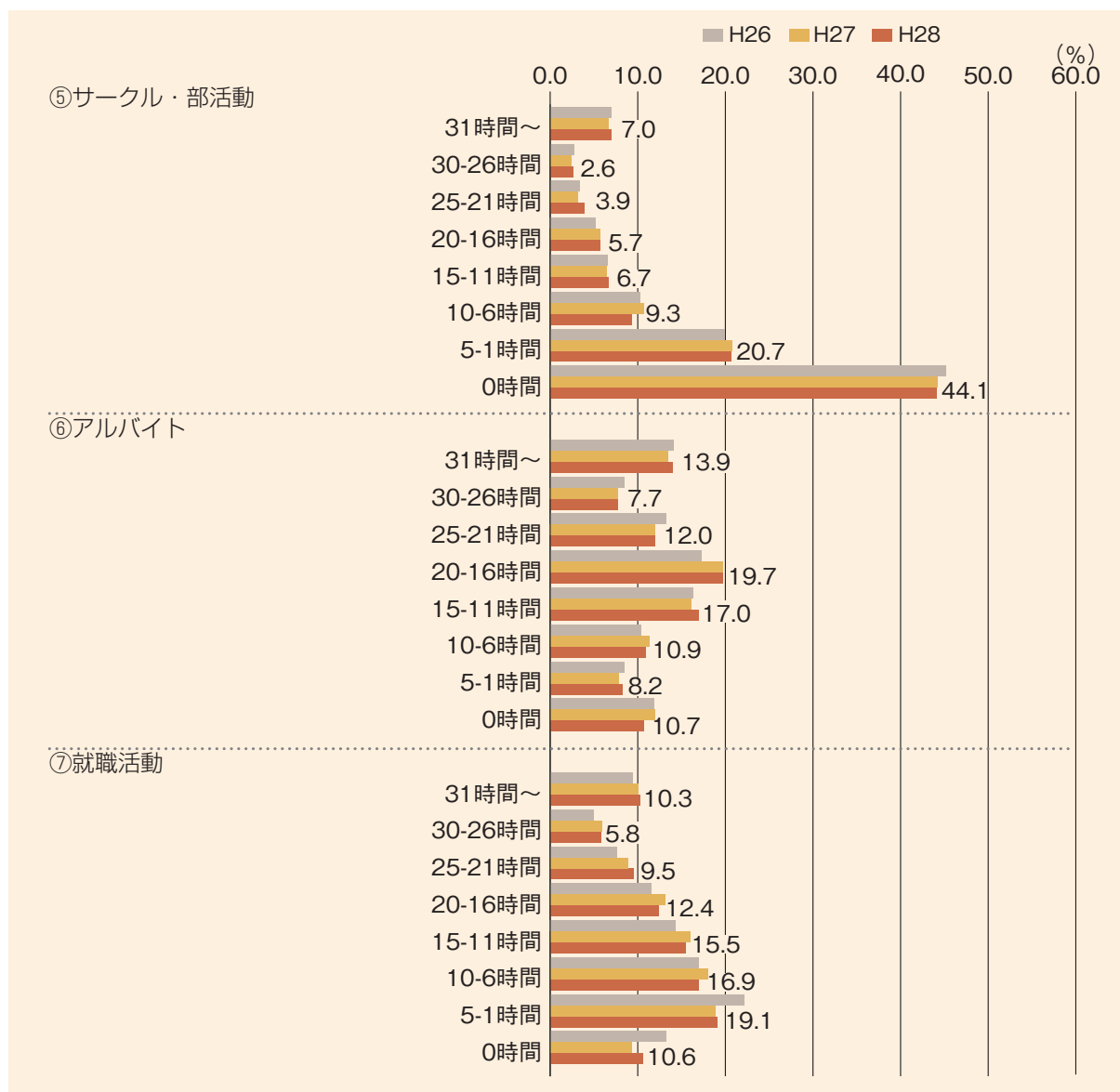
Q8 授業以外で、大学で充実して欲しかった学習の支援にはどのようなものがありますか。(複数回答可・3つまで)



授業以外で、大学で充実して欲しかった学習の支援について、経年で高い割合を示しているのは「4. レポート、論文の書き方相談」(39.4%)であり、次に「5. 語学学習の支援」が平成26年度よりは減少しているものの、約25%と高い数値となっている。また「7. 履修相談」は約2割の学生が更なる充実を希望している。

今年度の典型的な1週間について、平均的な生活時間をお答えください。
(休日を含む)





「①授業など(実験・実習を含む)への出席」について、「5-1時間」が最も高く3割強であり、その他、「10-6時間」(15.1%)、「15-11時間」(12.2%)、「20-16時間」(12.3%)、「25-21時間」(10.5%)はそれぞれ1割前後である。

「②授業の予習・復習や課題をする」についても、「5-1時間」が圧倒的に高く5割強であり、次に「0時間」(17.4%)、「10-6時間」(12.9%)となっている。

「③卒業論文、卒業研究に取り組む」について、分布は分散しており、「0時間」、「5-1時間」はそれぞれ約2割弱、その他、「10-6時間」(15.1%)、「31時間」(13.1%)、「15-11時間」(11.5%)、「20-16時間」(9.7%)はそれぞれ1割前後である。

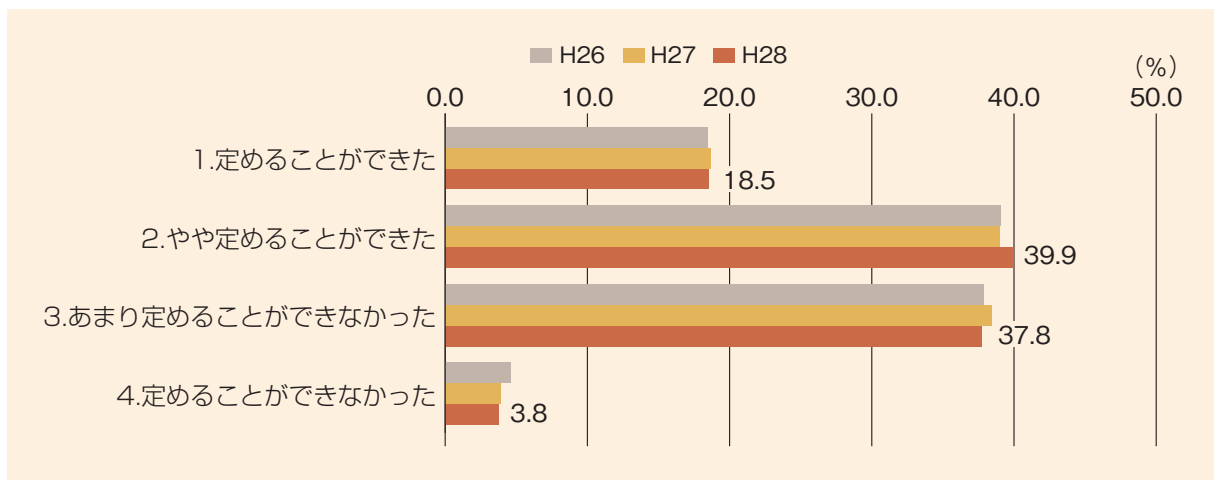
「④大学の授業とは関係ない自主的な学習」について、「5-1時間」が最も高く約4割、「0時間」は2割強、「10-6時間」1割強となっている。

「⑤サークル・部活動」について、「0時間」が最も高く4割を超え、次いで「5-1時間」が約2割である。

「⑥アルバイト」について、「20-16時間」が最も高く約2割、その他、「15-11時間」(17.0%)、「31時間」(13.9%)、「25-21時間」(12.0%)、「10-6時間」(10.9%)、「0時間」(10.7%)は1割台となっている。

「⑦就職活動」について、分布は分散しており、「5-1時間」が最も高く、2割弱、他は「30-26時間」(5.8%)、「25-21時間」(9.5%)を除き、それぞれ1割台である。

Q10 | 大学生活の目標を、明確に定めることができましたか。

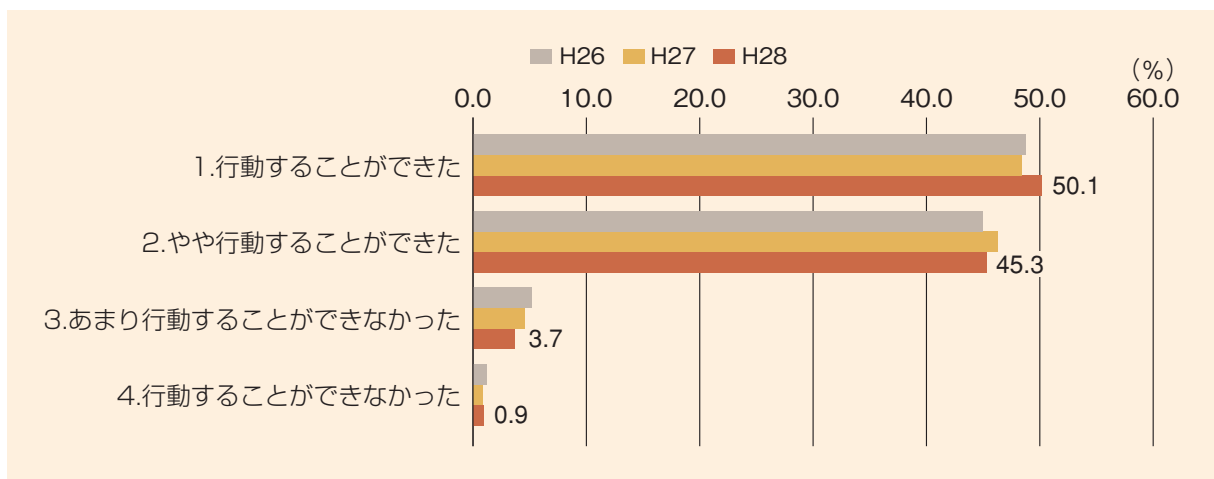


大学生活の目標について、「1. 定めることができた」(18.5%)と「2. やや定めることができた」(39.9%)は、合わせて約6割である。

Q11 | Q10で1・2と回答した方にお聞きします。どのようなことを目標に定めましたか。

自由記述のため省略。

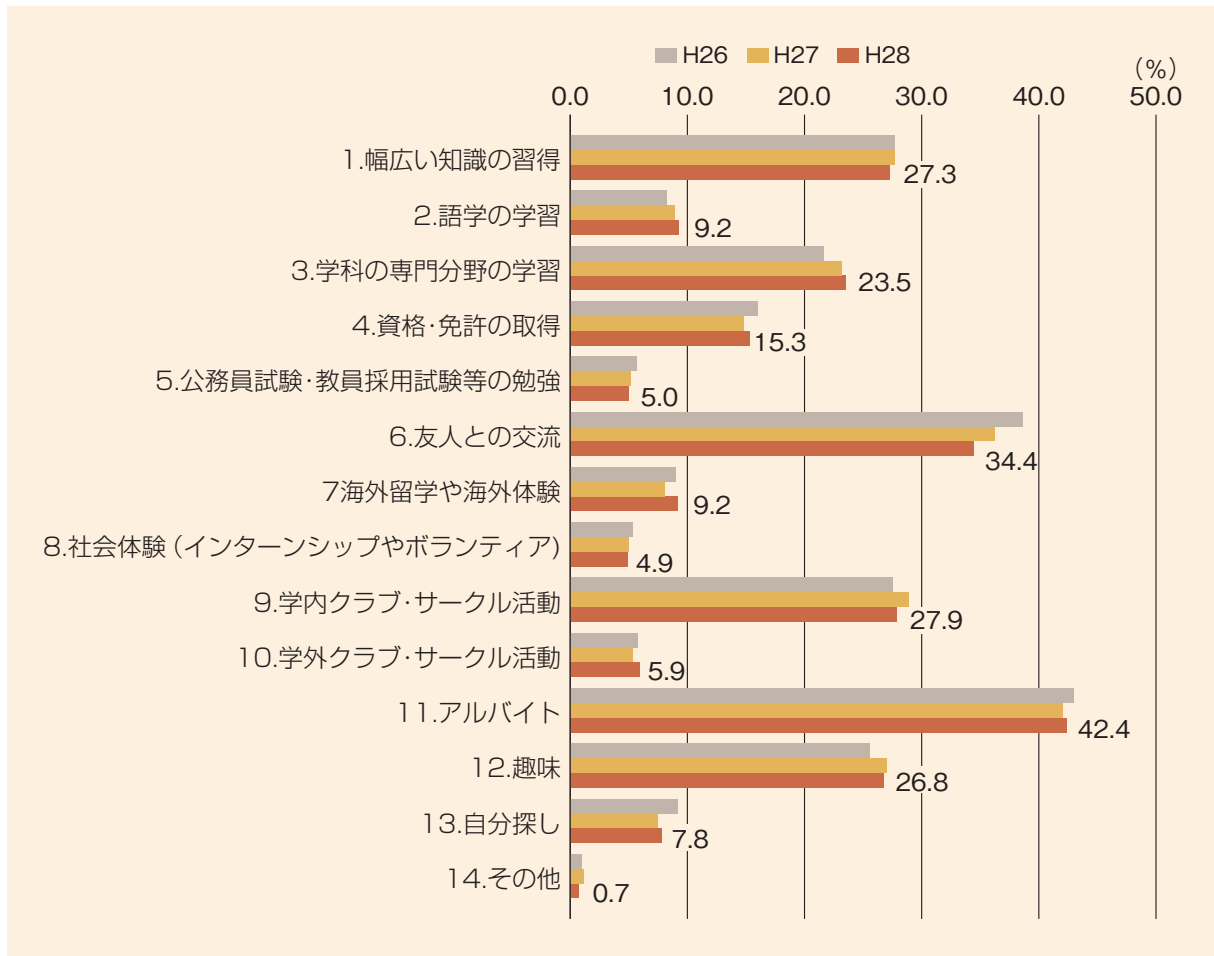
Q12 | Q10で1・2と回答した方にお聞きします。定めた目標に向かって行動することができましたか。



定めた目標に向けた行動について、「1. 行動することができた」は50.1%、「2. やや行動することができた」は45.3%と、合わせて95.4%である。

Q13

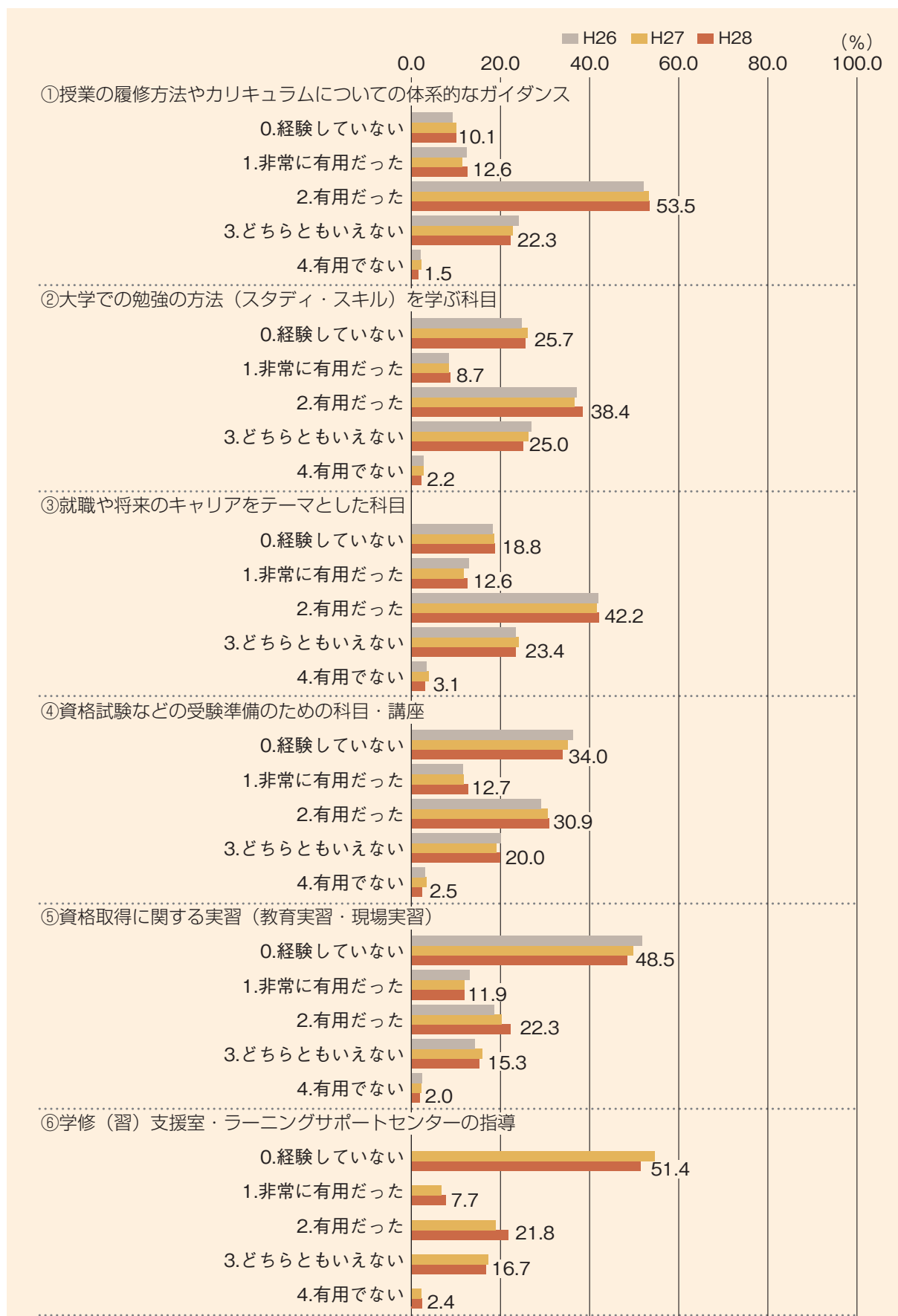
大学生活で、興味や関心を持って取り組んだことは何ですか。
(複数回答可・3つまで)



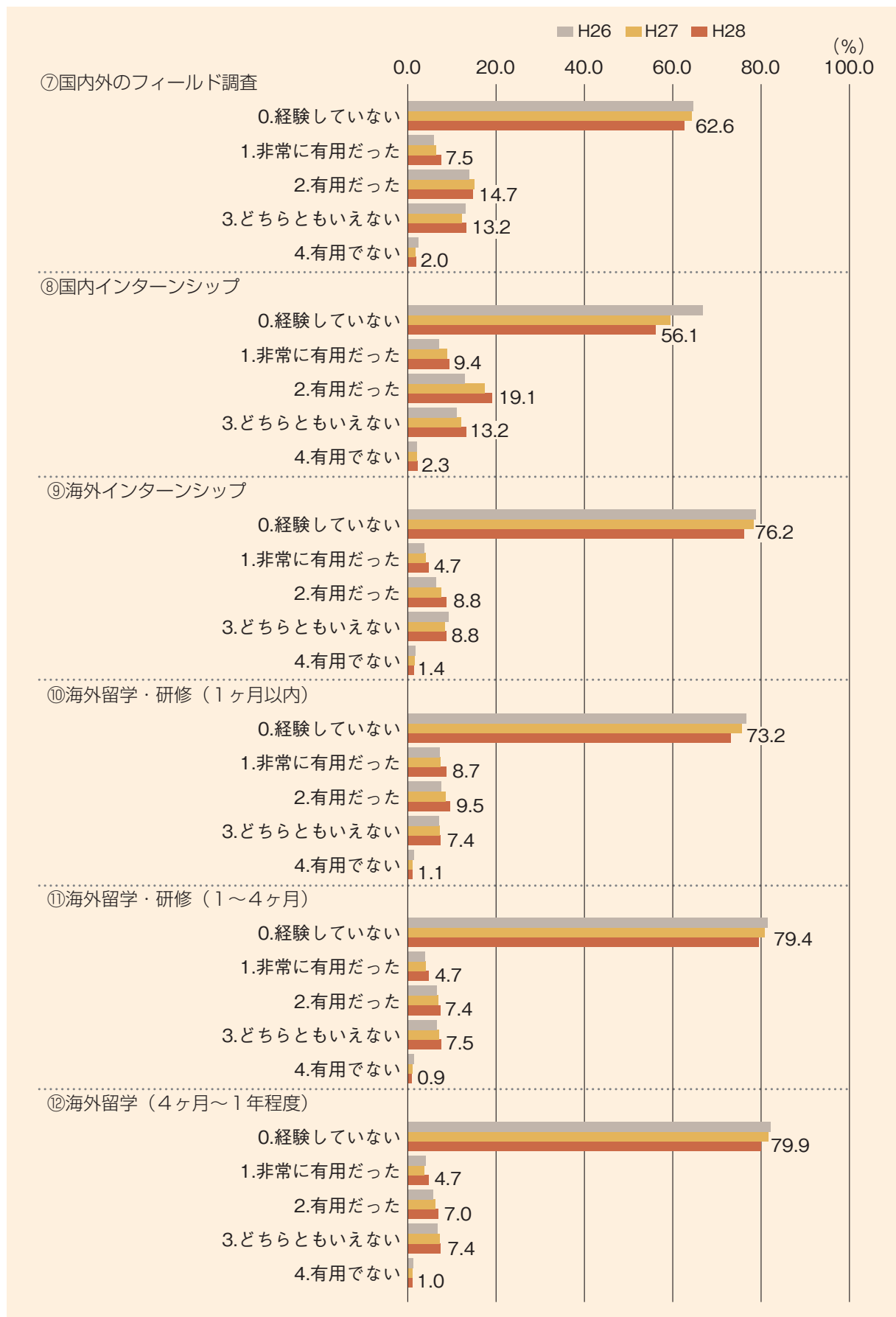
「11. アルバイト」は42.4%、「6. 友人との交流」は34.4%であり、この2つの項目は過去3年間で継続的に第1位と第2位となっている。その他、「9. 学内クラブ・サークル活動」(27.9%)、「1. 幅広い知識の習得」(27.3%)、「12. 趣味」(26.8%)がそれぞれ25%を超えている。「3. 学科の専門分野の学習」は2割台であり、過去3年間で継続して増加傾向にある。

Q14

大学に入ってから次のような経験はありましたか。
また、それは有用でしたか。



※⑥については、H27 から項目追加



「①授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス」について「1. 非常に有用だった」(12.6%)と「2. 有用だった」(53.5%)を合わせると、肯定的な回答率は約66%に達している。

「②大学での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目」について、「0. 経験していない」は約26%である。「1. 非常に有用だった」(8.7%)と「2. 有用だった」(38.4%)を合わせると、肯定的な回答率は約47%である。

「③就職や将来のキャリアをテーマとした科目」について、「0. 経験していない」は約19%である。「1. 非常に有用だった」(12.6%)と「2. 有用だった」(42.2%)を合わせると、肯定的な回答率は約55%である。

「④資格試験などの受験準備のための科目・講座」について、「0. 経験していない」は34%で、経年で減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(12.7%)と「2. 有用だった」(30.9%)を合わせると、肯定的な回答率は約4割強である。

「⑤資格取得に関する実習(教育実習・現場実習)」について、「0. 経験していない」は約49%で、経年で減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(11.9%)と「2. 有用だった」(22.3%)を合わせると、肯定的な回答率は約3割強である。

「⑥学修(習)支援室・ラーニングサポートセンターの指導」について、「0. 経験していない」は約51%である。「1. 非常に有用だった」(7.7%)と「2. 有用だった」(21.8%)を合わせると、肯定的な回答率は約3割弱である。

「⑦国内外のフィールド調査」について、「0. 経験していない」は約63%で、経年で減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(7.5%)と「2. 有用だった」(14.7%)を合わせると、肯定的な回答率は約2割強である。

「⑧国内インターンシップ」について、「0. 経験していない」は約56%で、減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(9.4%)と「2. 有用だった」(19.1%)を合わせると、肯定的な回答率は約3割弱である。

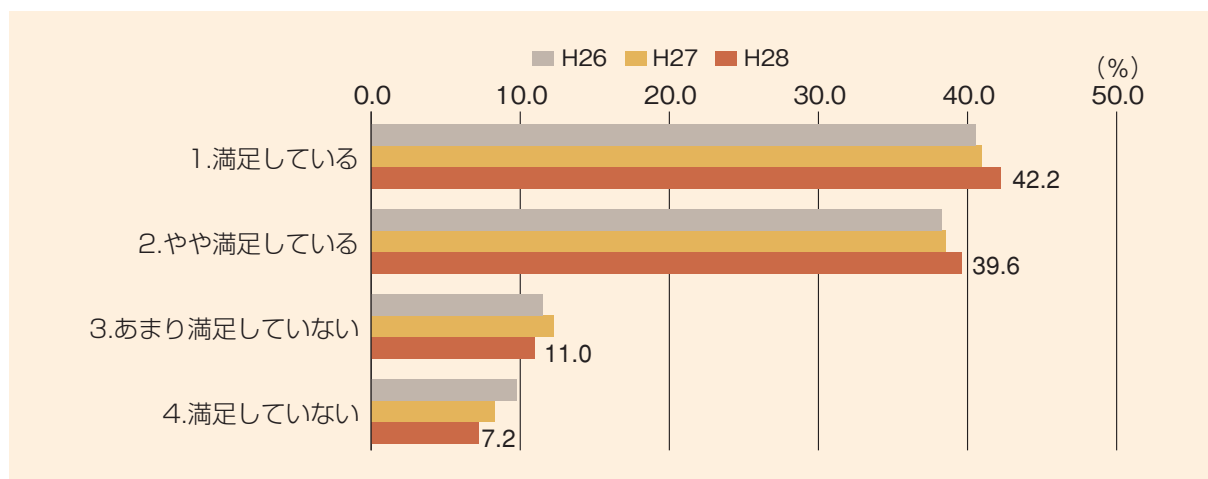
「⑨海外インターンシップ」について、「0. 経験していない」は約76%で、減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(4.7%)と「2. 有用だった」(8.8%)を合わせると、肯定的な回答率は約1割強である。

「⑩海外留学・研修(1ヶ月以内)」について、「0. 経験していない」は約73%で、減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(8.7%)と「2. 有用だった」(9.5%)を合わせると、肯定的な回答率は約2割弱である。

「⑪海外留学・研修(1~4ヶ月)」について、「0. 経験していない」は約8割弱で、減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(4.7%)と「2. 有用だった」(7.4%)を合わせると、肯定的な回答率は約1割強である。

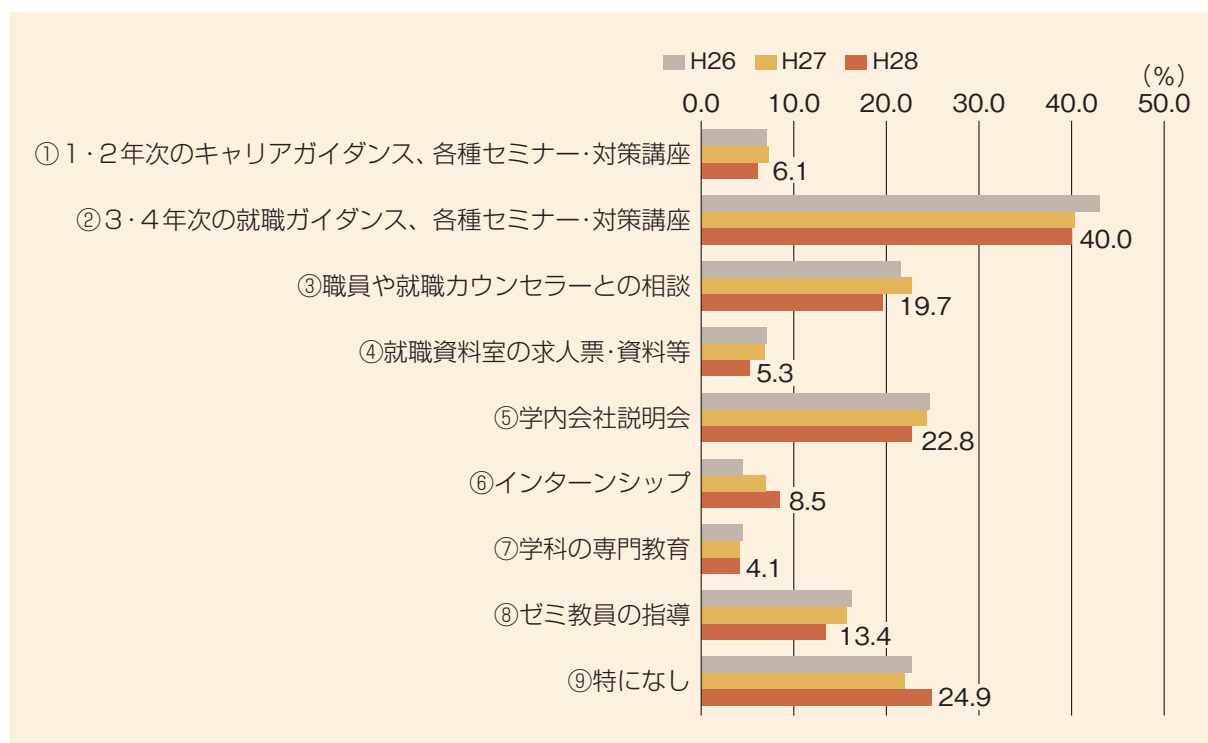
「⑫海外留学(4ヶ月~1年程度)」について、「0. 経験していない」は約8割で、減少傾向が見られる。「1. 非常に有用だった」(4.7%)と「2. 有用だった」(7.0%)を合わせると、肯定的な回答率は約1割強である。

Q15 自分の就職活動およびその結果について、満足していますか。



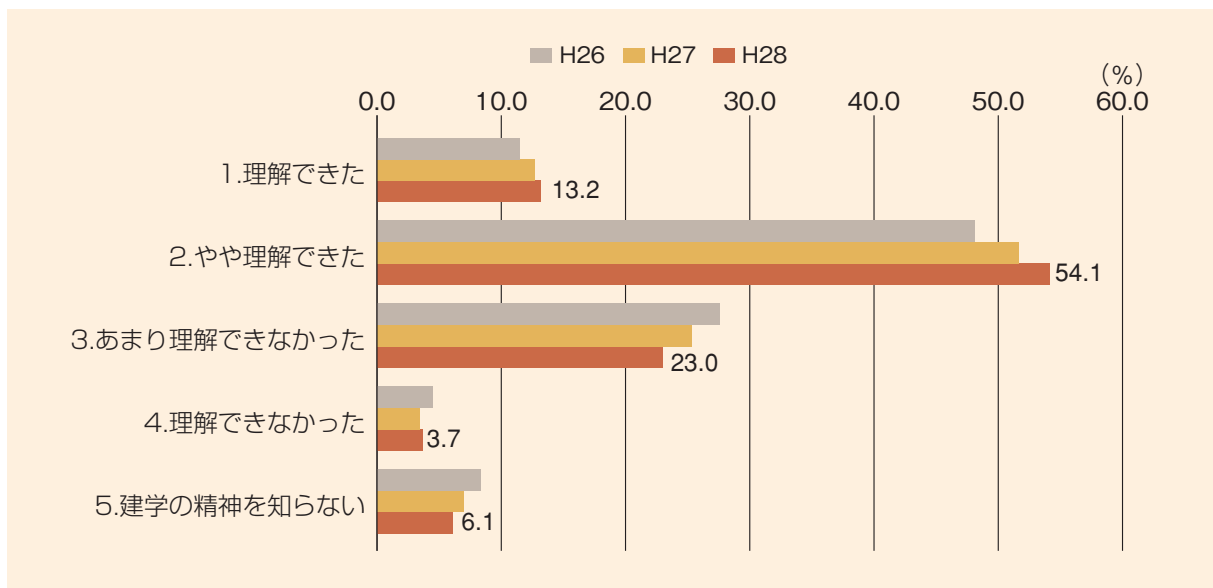
「1.満足している」の割合は4割強、「2.やや満足している」の割合は約4割と、肯定的な回答率は約8割強であり、経年で増加傾向が見られる。これに対して、「4.満足していない」の割合は約7%で、経年で減少傾向が見られる。

Q16 進路が決定するまでの大学としてのサポートで、有益だったのはどのようなことでしたか。(複数回答可・3つまで)



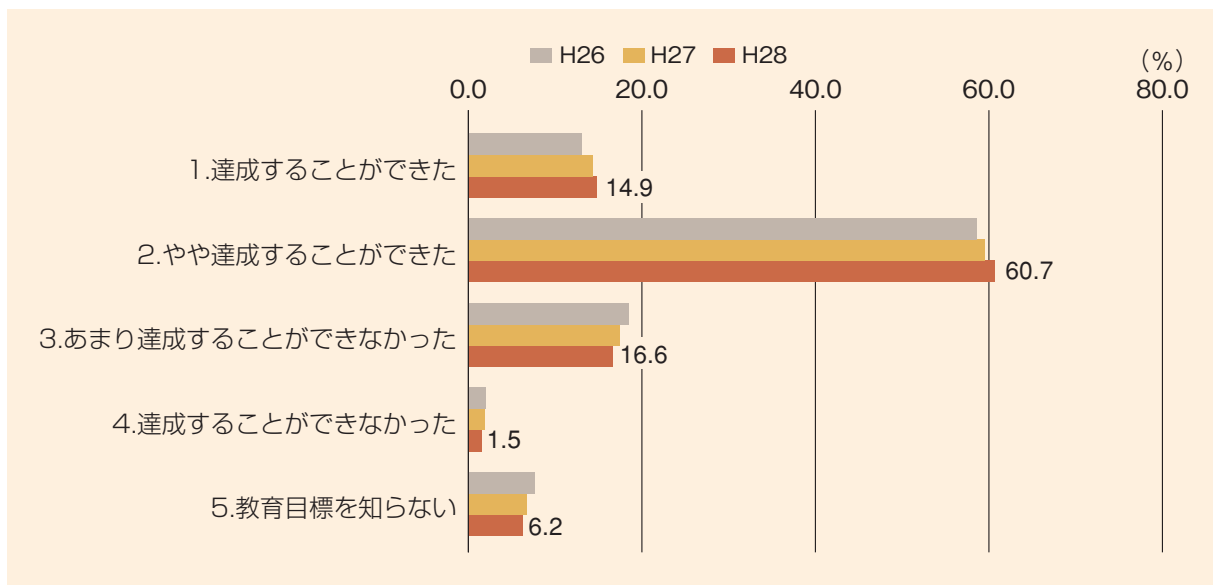
「②3・4年次の就職ガイダンス、各種セミナー・対策講座」は最も高く4割であるが、経年で減少傾向にある。「⑤学内会社説明会」、「③職員や就職カウンセラーとの相談」は約2割、「⑧ゼミ教員の指導」は1割強であり、いずれも昨年度より減少傾向にある。「⑥インターンシップ」は8.5%で、経年で増加傾向にある。

Q17 | 大学の建学の精神を知り、その内容を理解できましたか。



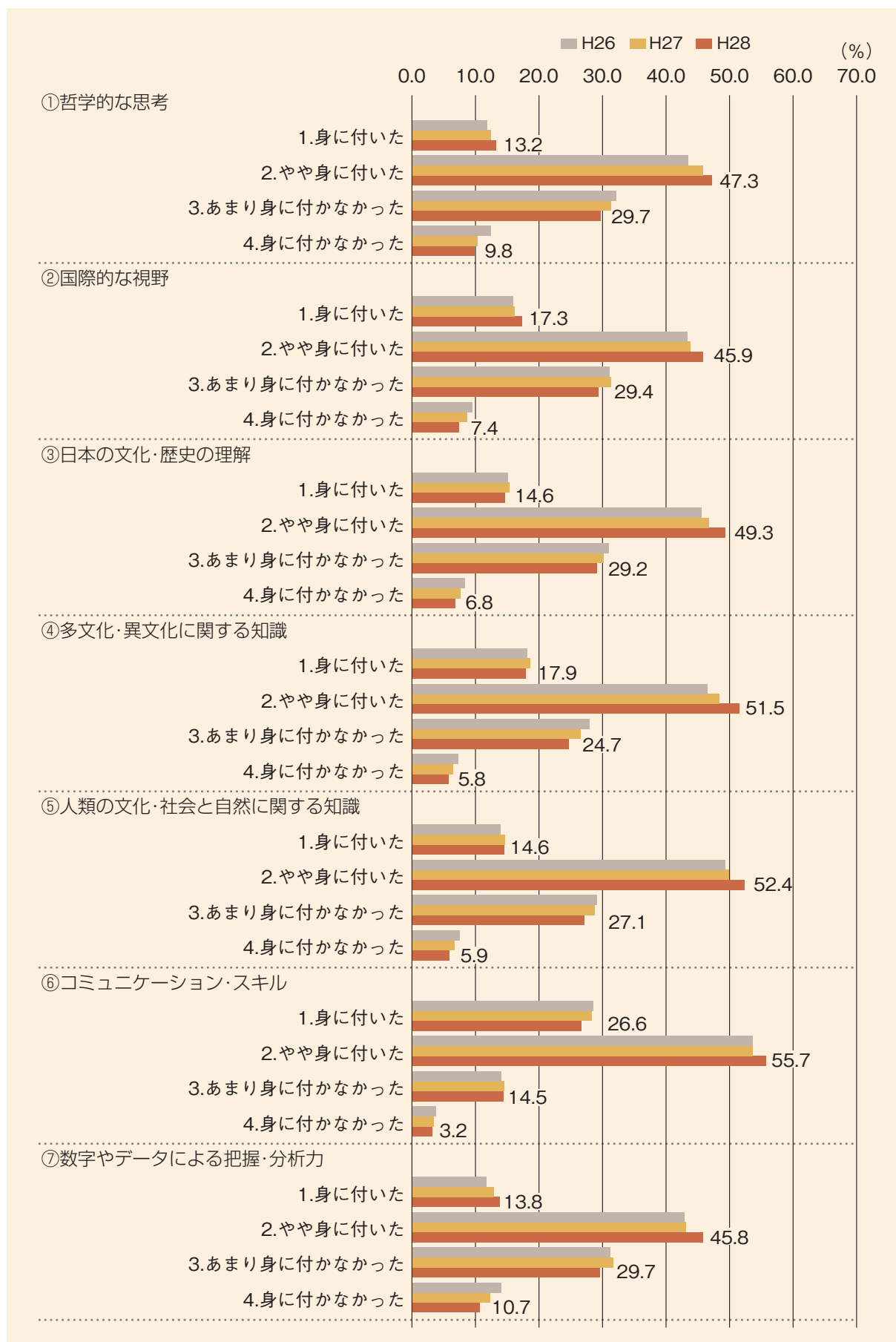
「1.理解できた」の割合は約13%、「2.やや理解できた」の割合は約54%で、肯定的な回答率は合計7割弱であり、経年で増加傾向が見られる。これに対して、「5.建学の精神を知らない」は約6%で、経年で減少傾向が見られる。

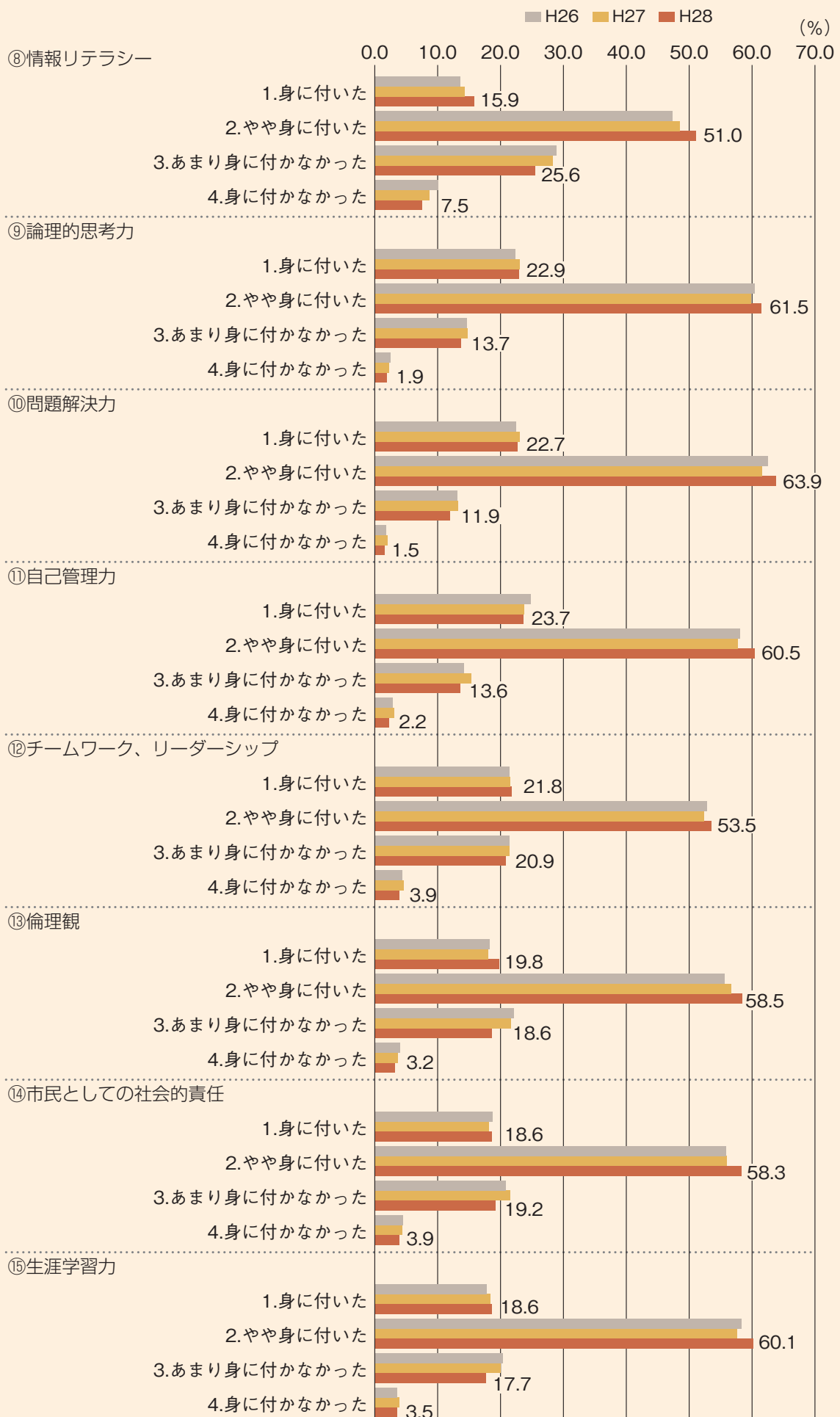
Q18 | 所属学部・学科の教育目標を理解し、達成することができましたか。



「1.達成することができた」の割合は約15%、「2.やや達成することができた」の割合は約61%で、肯定的な回答率は合計約76%であり、経年で増加傾向が見られる。

Q19 | 4年間を通じて、以下を身に付けることができましたか。





「①哲学的な思考」について、「1.身に付いた」(13.2%)と「2.やや身に付いた」(47.3%)合わせて、肯定的な回答率は約60%であり、経年で増加傾向が見られる。

「②国際的な視野」について、「1.身に付いた」(17.3%)と「2.やや身に付いた」(45.9%)合わせて、肯定的な回答率は約63%であり、経年で増加傾向が見られる。

「③日本の文化・歴史の理解」について、「1.身に付いた」(14.6%)と「2.やや身に付いた」(49.3%)合わせて、肯定的な回答率は約64%である。

「④多文化・異文化に関する知識」について、「1.身に付いた」(17.9%)と「2.やや身に付いた」(51.5%)合わせて、肯定的な回答率は約7割弱である。

「⑤人類の文化・社会と自然に関する知識」について、「1.身に付いた」(14.6%)と「2.やや身に付いた」(52.4%)合わせて、肯定的な回答率は67%であり、経年で増加の傾向が見られる。

「⑥コミュニケーション・スキル」について、「1.身に付いた」(26.6%)と「2.やや身に付いた」(55.7%)合わせて、肯定的な回答率は約82%である。

「⑦数字やデータによる把握・分析力」について、「1.身に付いた」(13.8%)と「2.やや身に付いた」(45.8%)合わせて、肯定的な回答率は約60%であり、経年で増加の傾向が見られる。

「⑧情報リテラシー」について、「1.身に付いた」(15.9%)と「2.やや身に付いた」(51.0%)合わせて、肯定的な回答率は約67%であり、経年で増加の傾向が見られる。

「⑨論理的思考力」について、「1.身に付いた」(22.9%)と「2.やや身に付いた」(61.5%)合わせて、肯定的な回答率は約84%である。

「⑩問題解決力」について、「1.身に付いた」(22.7%)と「2.やや身に付いた」(63.9%)合わせて、肯定的な回答率は約87%である。

「⑪自己管理能力」について、「1.身に付いた」(23.7%)と「2.やや身に付いた」(60.5%)合わせて、肯定的な回答率は約84%である。

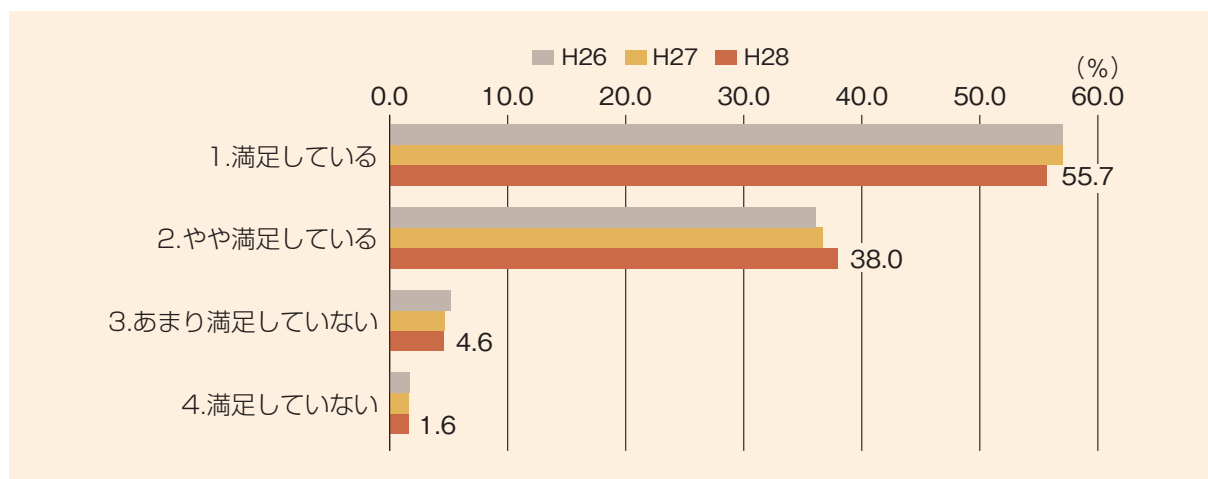
「⑫チームワーク、リーダーシップ」について、「1.身に付いた」(21.8%)と「2.やや身に付いた」(53.5%)合わせて、肯定的な回答率は約75%である。

「⑬倫理観」について、「1.身に付いた」(19.8%)と「2.やや身に付いた」(58.5%)合わせて、肯定的な回答率は約78%であり、過年度よりも増加の傾向が見られる。

「⑭市民としての社会的責任」について、「1.身に付いた」(18.6%)と「2.やや身に付いた」(58.3%)合わせて、肯定的な回答率は約77%である。

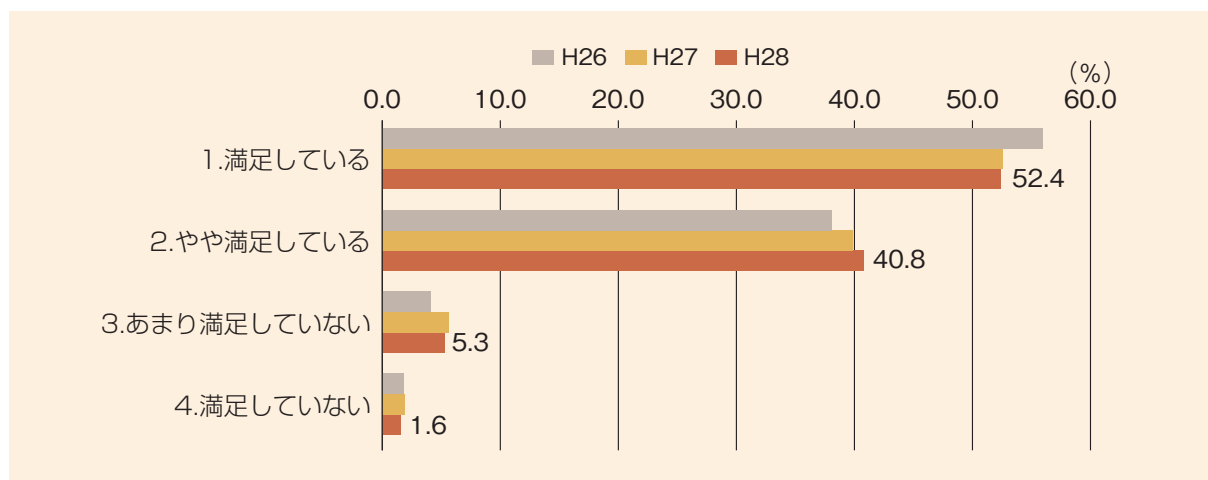
「⑮生涯学習力」について、「1.身に付いた」(18.6%)と「2.やや身に付いた」(60.1%)合わせて、肯定的な回答率は約79%であり、過年度よりも増加の傾向が見られる。

Q20 | 所属学部・学科に満足していますか。



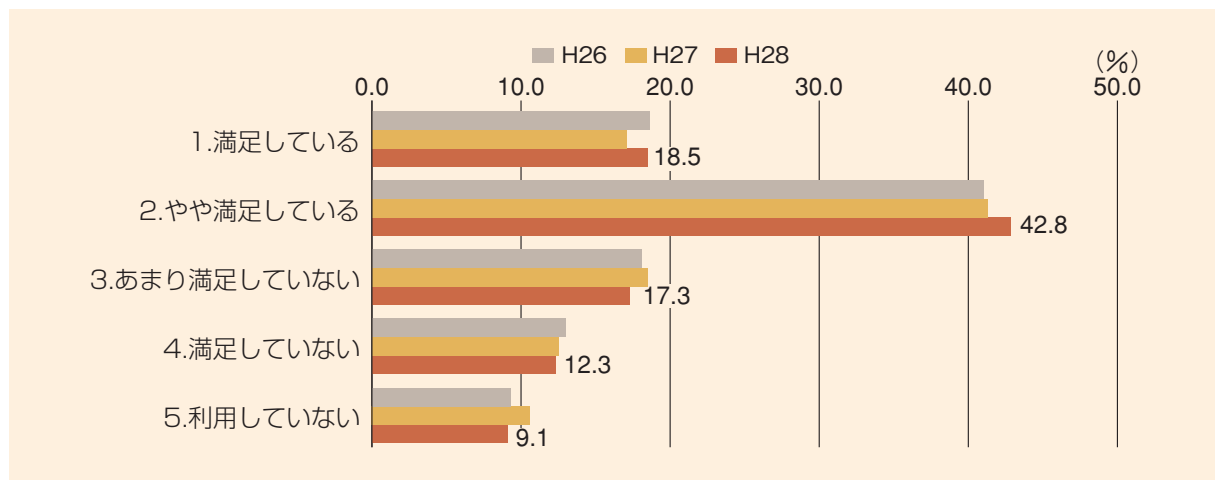
「1. 満足している」(55.7%)と「2. やや満足している」(38.0%)合わせて、肯定的な回答率は約 94% である。

Q21 | 東洋大学に満足していますか。



「1. 満足している」(52.4%)と「2. やや満足している」(40.8%)合わせて、肯定的な回答率は約 93% である。

Q22 | 大学の各種サービスに満足していますか。



全体として、「1. 満足している」(18.5%)と「2. やや満足している」(42.8%)合わせて、肯定的な回答率は約61%であり、過年度よりも増加の傾向が見られる。

項目ごとに見ていくと、「①教務窓口」について、「1. 満足している」(18.5%)と「2. やや満足している」(42.8%)合わせて、肯定的な回答率は約61%であり、過年度よりも増加の傾向が見られる。

「②学生生活窓口」について、「1. 満足している」(17.3%)と「2. やや満足している」(39.9%)合わせて、肯定的な回答率は約57%であり、過年度よりも増加の傾向が見られる。

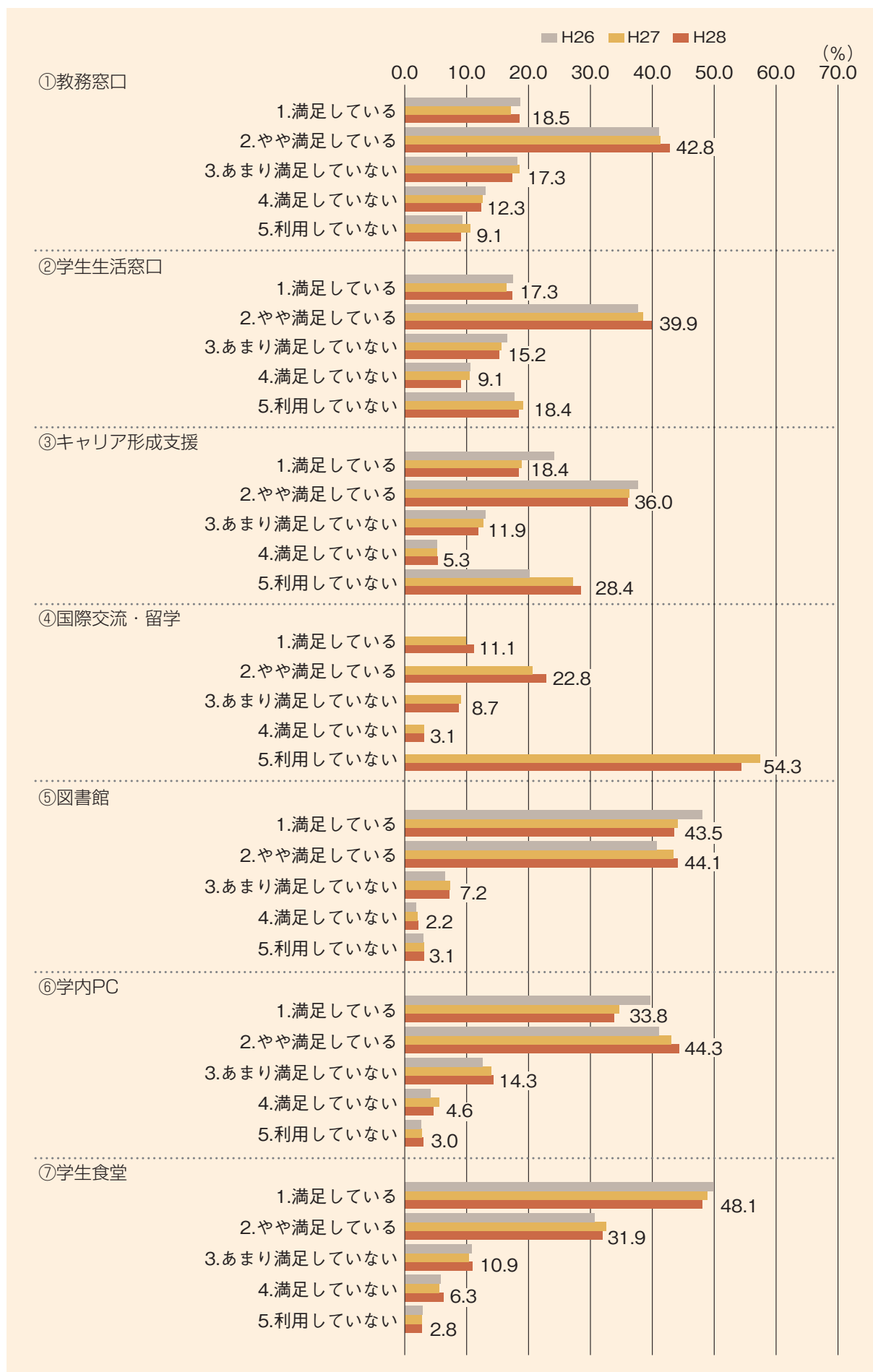
「③キャリア形成支援」について、「1. 満足している」(18.4%)と「2. やや満足している」(36.0%)合わせて、肯定的な回答率は約54%であり、経年で減少の傾向が見られる。なお一方で、「5. 利用していない」は約28%であり、経年で増加の傾向が見られる。

「④国際交流・留学」について、「1. 満足している」(11.1%)と「2. やや満足している」(22.8%)合わせて、肯定的な回答率は約34%であり、前年度より増加の傾向が見られる。なお、「5. 利用していない」は約54%であり、前年度より減少の傾向が見られる。

「⑤図書館」について、「1. 満足している」(43.5%)と「2. やや満足している」(44.1%)合わせて、肯定的な回答率は約87%である。

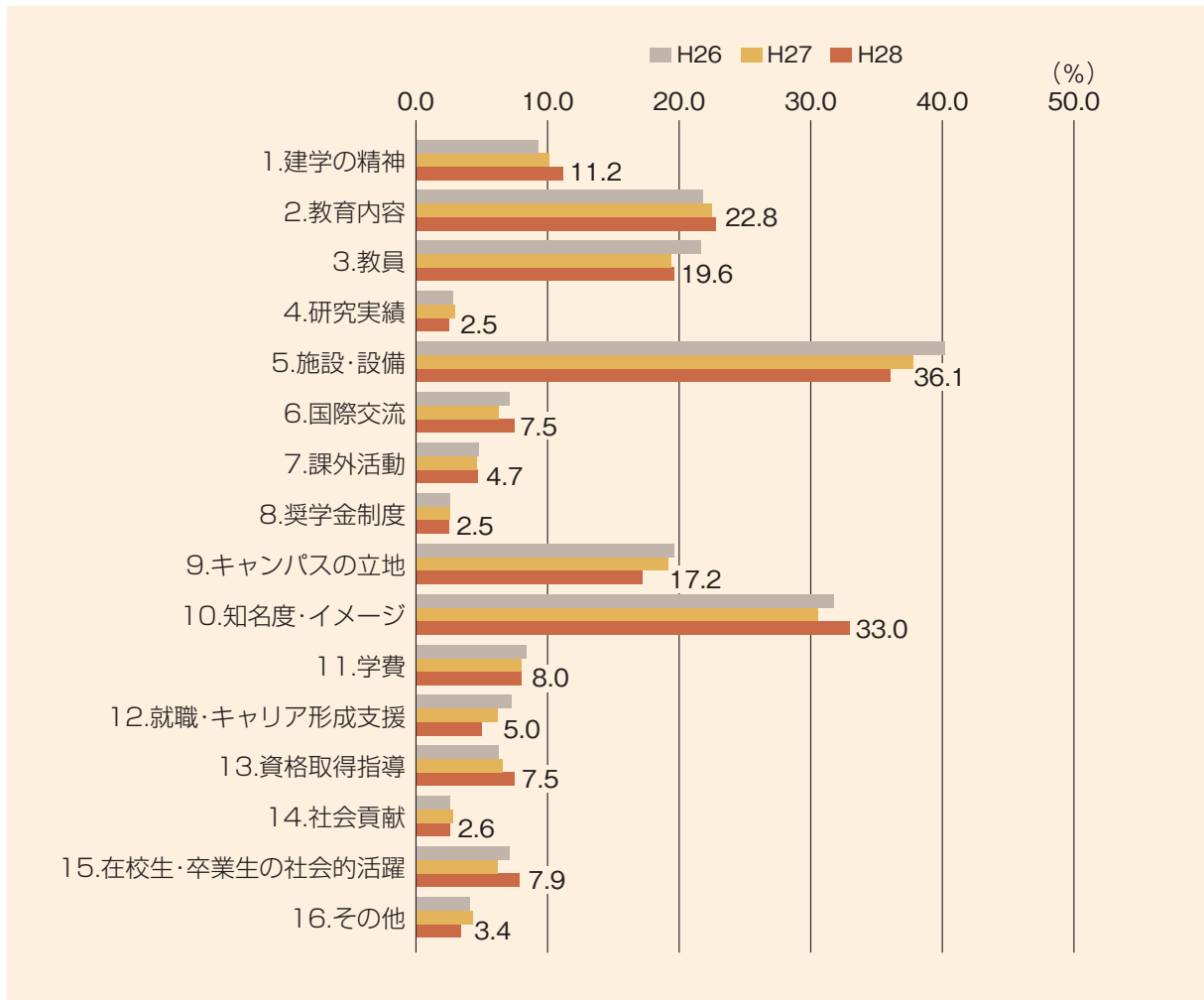
「⑥学内PC」について、「1. 満足している」(33.8%)と「2. やや満足している」(44.3%)合わせて、肯定的な回答率は約78%である。

「⑦学生食堂」について、「1. 満足している」(48.1%)と「2. やや満足している」(31.9%)合わせて、肯定的な回答率は80%である。



※④については、H27 から項目追加

Q23 東洋大学の所属学部・学科で、他の人に誇りを持って薦められる、良い点はどのようなところですか。(複数回答可・3つまで)



「5. 施設・設備」が最も高く約36%であるが、経年で見ると減少の傾向がある。「10. 知名度・イメージ」は約3割と増加傾向にある。

「2. 教育内容」は約22%であり経年で増加傾向にある。続いて、「3. 教員」は約2割、「9. キャンパスの立地」は約17%と、過年度よりも減少傾向にある。「1. 建学の精神」は約1割で、経年で増加傾向にある。また、「15. 在校生・卒業生の社会的活躍」(7.9%)、「6. 国際交流」(7.5%)、「13. 資格取得指導」(7.5%)は1割未満であるが、過年度よりも増加傾向が見られる。

Q24 東洋大学および学部・学科をより良くするために、改善が必要だと思うところはどのようなところですか。

自由記述のため省略。

and Independence and Self-initiative The Basis of All Learning Lies in Philosophy, Integrating Knowledge and Virtue,